

平和祈念滋賀県戦没者追悼式

# 悲しい歴史を繰り返さない



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34  
滋賀県遺族会館  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会長  
岸田 孝一

8月26日、午前10時から滋賀県主催の平成29年平和祈念滋賀県戦没者追悼式が滋賀県立体育館で開催され、758人の遺族をはじめ、来賓79人が参列した。

式場は舞台中央に菊花で埋められた祭壇に「滋賀県戦没者之霊」の標柱が凛と立ち、献花台が置かれた。式典の司会は私たち遺族会の次の代を担う青年委員会の林祐美子さんが務め、

滋賀県警察音楽隊の吹奏楽の伴奏による国歌斉唱から始まった。三日月大造滋賀県知事は式辞で「先の大戦終結から72年の歳月が過ぎたが、未だ遙か北の大地や南の島々に眠り、故郷

への帰還を果たされていないご遺骨のことも私たちは忘れてはならない。全ての戦争犠牲者の方々に対し心からご冥福をお祈りする」と述べた。

戦没者と戦争で亡くなられた全ての方へ1分間の黙祷を捧げた後、奥村芳正滋賀県議長、岸田孝一滋賀県遺族会長の追悼の辞へと続いた。

岸田会長は「恒久平和の実現と祖国の発展を願い、その尊い命を捧げられた英霊に心を馳せ、悲慘な戦争を身をもって体験した私たちは、この悲しい歴史を二度と繰り返さない」と誓った。



追悼の辞を述べる岸田孝一 滋賀県遺族会長

続いて、三日月知事はじめ代表参列者並びに遺族代表の献花へと移り、式典の最後に、青少年代表の守山市立明富中学校3年麻中要さんが平和メッセージを述べた。滋賀県平和祈念館で行われている子ども向け体験学習「平和の学校あかり・ピーススクール」に参加して、

「滋賀県内各地や大阪に残る戦跡をはじめ、多くの戦跡を見たことで戦争の傷跡を自分の目で見ることが大切。『いつも通り』の『明日』は私たちがつくらな

いとやってこない」と訴えた。実にすばらしいメッセージであったので、2面に紹介する。今回の追悼式では1000席用意されたが、遺族会員の高

齢化もあり空席が目立った。この滋賀県主催の戦没者追悼式が広く滋賀県民のものとして定着することを願う。  
(広報 川合 良雄)

## 要望の具現化を評価

### 最後となったリレー行進

滋賀県遺族会は8月9日、県下各地から120人の遺族会員が参加し、「第36

回慰霊と平和祈願リレー行進」を行いました。9時に滋賀県庁前

で岸田孝一滋賀県遺族会長から三日月大造滋賀県知事に要望書を手交しました。続いて、三日月知事、奥村芳正滋賀県議長から激励の言葉をいただきました。また、今回このリレー行進は最終回となることから、参加者全員と三日月知事、奥村議長にもお入りいただき、横断幕を掲げ記念写真を撮りました。



三日月大造滋賀県知事と最終回となった「慰霊と平和祈願リレー行進」に参加した皆さん

今回の訪問先は、豊郷町・甲良町・多賀町・彦根市の1市3町で、要望書の手交式を実施しました。各市町とも市長や町長、副町長のほか、教育長をはじめ幹部職員、更には県議会議員、市町議会議員などたくさんのお出向をいただき、私たちが大いに勇気づけられました。皆様に支えられている実感が

伝わりました。会員の高齢化が進む中で、滋賀県遺族会は各事業の見直しを検討しています。平和祈願リレー行進の中止もその一つで、やむを得ないことではあります。一昭和57年第一回慰霊と平和祈願リレー行進では、8月12日から13日、夜を徹して行進した人たちのことを聞くにつけ、万感胸に迫る思いと当時の若さと情熱がひしひしと伝わってきます。

要望内容については、当初は滋賀県遺族会レベルでしたが、市町遺族会からの要望が加わり、具現化されかねないが実現さ

れていったことは評価されます。例えば、郡市町主催による戦没者追悼式、慰霊祭が定着化したことです。今回も滋賀県遺族会の要望のほかに多くの市町遺族会から慰霊碑・忠魂碑の集約化や維持管理の要請等が要望されており、実現することを願うばかりです。また、今回の訪問先での手交式会場として、豊郷町では歴史的な建造物として評価の高い旧豊郷小学校の講堂を用意してくださいました。正面に高く掲げられた日の丸、深紫の緞帳、長年多くの人の肌をぬくもりで撫でられたであろう



昭和57年の「第一回慰霊と平和祈願リレー行進」の一コマ。当時は700人余りが参加し、夜を徹して行進が行われた。長椅子の肘掛をさすりながら、このような会場での手交式に立ち会えたことに喜びを感じました。そしてこの計らいは前回(平成24年)のリレー行進で訪問した時、自身も叔父を戦争で亡くした遺族会員であると話された伊藤定勉町長の配慮ではないかと思えました。今回は行進を極力減らしたこともあり、予定された全行程を全員無事終えることができませんでした。今一つうれいことがあります。それは、三日月知事の激励の言葉です。「私はフィリピンや沖縄への戦跡慰霊巡拝に参加させていただき、戦場で亡くなられた方が国の平和と安泰そして愛する家族の安寧と豊かさを願っておられたであろうと一層強く受け止めるようになりまし

(総務企画委員会 委員 竹井 昌夫)



# 平和メッセージ

## 平和は「願う」ものではなく

### 「しるる」もの

守山市立明富中学校3年 麻中 要

私は小学5年生の頃から、滋賀県平和祈念館で行われている「平和の学校あかり・ピーススクール」に参加しています。今年で5年目の参加となりますが、戦争が私たちの生活からそう遠くない出来事だと思えるようになったのは、つい最近のことです。

小学校の修学旅行で訪れた広島では、原爆ドームを見学したり、被爆した方のお話を伺ったりしました。中学校の修学旅行で訪れた沖縄では、戦時中に野戦病院として使用されていたガマに入ったこと、平和の礎を見学したりしました。

また、ピーススクールでは、滋賀県内の各地や大阪城に残る数々の戦跡を巡りました。その中で特に印象に残っているのは、爆風によって壊れた大阪城の石垣です。何トンもある石垣でさえ動かしてしまう威力を目の当たりにした私は、もしも自分が当時その場にいたら、と想像して鳥肌が立ちました。いくつもの戦跡を見たことで、自分の身近にも戦跡があることを知りました。だから私は、これからの戦争の傷跡を自分の目で見ることが大切だと思います。私がこれまでに一番強く思ったことは、「明日」が必ず来ることは限らない、「いつも通り」がこの先も続くとは限らない、ということです。

日本は、終戦から72年間戦争をしていません。また、戦争を体験された方のお話を直接聞く機会も減ってきています。だからこの争いの少ない平和な日々が、これからも続いていくと勘違いしてしまいがちです。学校に行くと勉強したり、友達と遊んだり、そんな日々は、今の私たちにとって当たり前です。しかし、近くの国

が次にいつミサイルを撃ってくるかわからず、核保有国もたくさんあります。紛争も、世界のあちこちで起きています。だから、この世界で次にいつ戦争が始まるかわからないと思えます。「いつも通り」の「明日」は、私達でつくりたいと思っています。そのことを、今までの体験で学びました。

「いつも通り」の「明日」をつくるために、私達にできることは何か。やはり、一番大切なのは、戦争をもう二度と起こさないために語り継ぎ、風化させないことだと思います。しかし、それは簡単なことではありません。今の中学生のほとんどは、戦争は、学校の授業で習う出来事だという認識だと思えます。大抵の人が、戦争に対して興味や関心を持っていないのが現状です。しかし、私はもっといろいろな人に戦争について知ってほしいです。

平和な世界にするには、戦争の悲惨さや恐ろしさを学び、一人ひとりが「平和」を意識することが大切です。「戦争をなくす」と言うのは難しく聞こえますが、小さなことから始めていけば良いと思います。まずは、家族や友達など、身近な人たちとのめめ事を無くすように意識する。全員がその意識を持てば争いは減り、平和な世界に近づけると思います。私も妹とよくけんかをします。しかし、少しずつでもその回数を減らし、家の平和からつくっていきたく思います。そして、そこから学校や町など少しづつでも平和を拡げていきたいです。

平和は「願う」ものではなく、「作る」ものだと思います。未来を担う私達だからこそ、戦争から学び、平和な世界を築いていきます。

# 全国戦没者追悼式

感想文

## 恒久平和の希求

### 次世代への継承

長浜市遺族会

青年部長 浅見 勝也

今回ご縁を賜り72回目の終戦記念日に、長浜市遺族会青年部長の立場で、日本武道館での「全国戦没者追悼式」に、滋賀県代表団の1人として参加させていただきました。なお、滋賀県遺族会青年部会から私を含めて5人の参列となりました。

全国から約5000人近くの遺族参列者が入場した後、天皇・皇后両陛下御臨席のもと、国歌斉唱、内閣総理大臣の式辞、正午の黙祷と式次第に則り厳かに進められました。また、天皇陛下のお言葉を

はじめ、各人の追悼の言葉及び献花に、今日までの日本の発展が、戦没者の皆様の尊い犠牲のうえに築かれていたことが表され、そこに敬意と感謝の重みを感じる事ができました。

私自身も、フィリピンレイテ島で戦死した祖母の弟をはじめ、国内外での戦没者約310万人のご冥福をお祈りするとともに、改めて世界の恒久平和を求め、戦争を知らない次世代への継承を真摯に引き受ける貴重な経験の場となりました。

なお、今回お世話になりました滋賀県の関係者の皆様ありがとうございました。引き続き微力ですが、県内遺族会青年部の皆様と共に、できる活動を実践してまいります。

## ひいおじちゃんのこと

### 想い伝わる

草津市立志津小学校5年

服部 沙莉奈

終戦記念の日、戦没者追悼式に参加させていただきました。私のひいおじちゃんがフィリピンで戦死しています。はじめに「東京へ行く」と聞いた時、戦争についてよくわかりませんでした。戦争を経験したことがないし、戦争について考えたこともなかったからです。ですが、ひいおじちゃんのことを知ると戦争について勉強しました。

本を読んだり、動画を見たりしました。家族にさよならも言えず、たくさんの方が亡くなっていったということ、どこで亡くなったかわからない方がいることが、とても悲しかったです。ひいおじちゃんが、ひいおばあちゃんが送っていた葉書を見せてもらいました。小さな細かい字でびっしりと伝えたいことが書いてあって、会いたい気持ちがとても伝わって来ました。私の名前の中にひいおじちゃんの漢字が一字入っています。これからは大切にこの名前を使っていきたいと思えます。

## お兄さん

### 天国から見守って!!

竜王町 古株 五郎

72回目の終戦の日を迎えた8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が日本武道館で開催されました。天皇・皇后両陛下や各界の代表、この式典に招かれた遺族約5000人を含め、約6400人が参列しました。

先の大戦において、約310万人の戦没者を悼んで滋賀県から54人の遺族が参列し、私は滋賀県代表の献花者の1人として花を手向けました。その時、心の中で「兄さん天国から見守ってください。13歳年上の兄、幸太郎は衛生兵として

関東軍に入り、終戦の1カ月前、1945年7月に戦死しました。私は5人兄弟の末っ子で、幼い頃に兄は旧満州(中国東北部)に渡ったため記憶にはほとんどありません。母親からは頭の良い優秀な人と聞かされていましたが、周囲を氣遣って戦後は兄の話をあまりしなくなりました。

昨年11月、滋賀県遺族会の戦跡慰霊巡拝に参加し、初めてフィリピンのレイテ島に行き、兄の最期の地を訪ねることで長年の宿願を果たすことができました。「弟の五郎です。聞こえますか」。現地での慰霊祭で呼びかけの言葉と追悼のための童謡「ふるさと」を歌い、「天国から戦争が起きないよう見守って」と語りかけました。



平和メッセージを述べる麻中要さん



献花をする青少年代表の皆さん



沖縄平和祈願慰霊大行進

平和への願いを世界へ発信

野洲市遺族会長 白井 嘉嗣

梅雨が明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。



沖縄平和祈願慰霊大行進に参加した皆さん

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

梅雨明け、真夏の太陽が容赦なく照りつける6月22日、午後2時那覇空港に降り立った野洲市からの参加者3人は、一路集合場所である「パシフィックホテル沖縄」へと向かった。

沖縄「近江の塔」戦没者追悼式

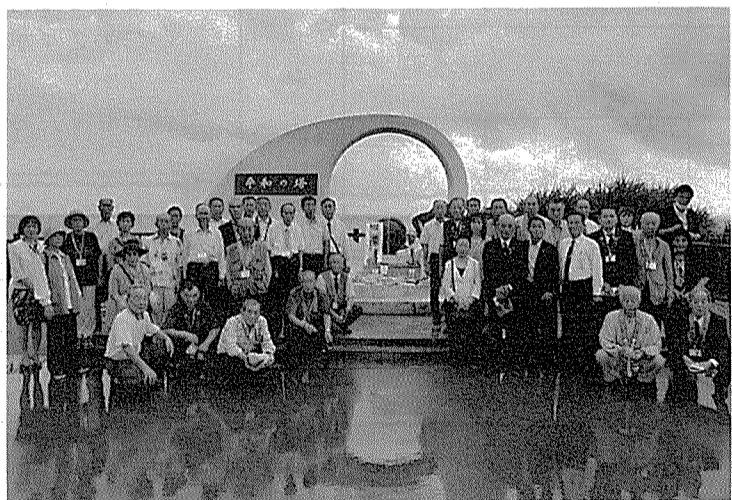
星に願いを...☆

草津市遺族会連合会長 木村 正昭

6月30日大阪空港を出発。那覇空港に到着後、バスにて沖縄県護国神社に参拝。武村英衆議員が合流され、3日間我々と行動を共にする。

英霊の御霊に「お父さん」と草津市の重田美津子さんが呼びかけられ、胸にじんとくるものがありました。涙雨が降りしきる中で導師の貴多成道さんの丁寧な読経で厳粛に合掌。

翌日は、沖縄市慰霊の塔に参拝し、慰霊祭が行われた後、恩納村の慰霊の塔に参拝。沖縄の観光地「万座毛」を見学しました。

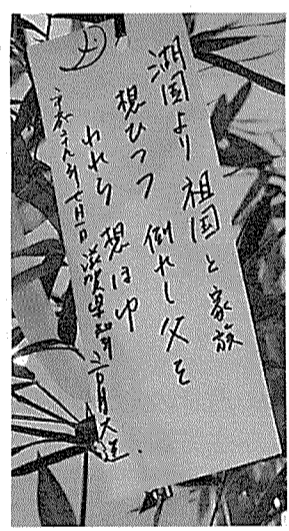


沖縄「平和の塔」の前で参加者の皆さん

日本遺族会主催の拝礼式が国立戦没者墓苑で挙行政され、参加者一同慰霊碑に献花して鎮魂の誠を捧げた。

長かった沖縄「慰霊の日」も終わりに近くとなり、全国から集う参加者一同が再度バスに分乗して、米須霊域内にある各慰霊碑へと向かい、参拝を済ませホテルに着いたのは黄昏迫る午後5時頃だった。

3人と彦根市から参加の1人を加え滋賀県からは4人。最初に水落日本遺族会長から労いの挨拶があり、宮城沖縄県遺族連合会長のことはに続き乾杯の発声があり、飲み物を互いに注ぎ合いながら今日一日の頑張りを称えあった。



三日月大造滋賀県知事の七夕短冊

ホテルのロビーに七夕の笹飾りがあり、早速三日月知事に短冊をお持ちして「星に願いを、一筆お願ひしたところ、「湖国より祖国と家族想いつつ倒れし父をわれら想ほゆ」と知事の思いを書いていた、七夕飾りに付けました。

この3日間は有意義な慰霊の旅であり、今後の遺族会にとって大変大きな意味を持つ事業であると確信いたします。

### 滋賀県健康医療福祉部 健康福祉政策課からのお知らせ

## 沖縄戦没者遺骨 DNA鑑定実施

厚生労働省では、戦没者遺骨のDNA鑑定について、これまで遺留品等から遺族が推定できる場合に、遺族からの申請に基づいて戦没者遺骨とのDNA鑑定を行い、判明した場合、遺骨を返還しています。

戦後70年以上を経て、遺族が高齢化していること等を踏まえ、平成29年度においては、試行的な取り組みとして、遺族と思われる方に対し、広報を通じてより広くDNA鑑定の申請を募ることとなりました。

具体的には、沖縄県の10地域(※)で収容された戦没者の遺骨について、遺族だと思われる方からの申請を募り、厚生労働省保管資料や申請された死亡場所等の情報に基づき、ある程度戦没者とのつながりが確認できる場合に、DNA鑑定が実施されます。

(記録上の死亡場所と実際の死亡場所が異なる場合等もありますので、お迷いの方についても、まずは申請ください)。

※10地域の名称

真嘉比(那覇市)、幸地(西原町)、大里宇高平(南城市)、経塚(浦添市)、前田(浦添市)、伊原(糸満市)、米須(糸満市)、嘉屋武(糸満市)、真壁(糸満市)、具志頭須武座原(八重瀬町)

つきましては、DNA鑑定の実施を希望される場合は、別紙1「申請手続きについて」をよくお読みいただいた上で、別紙2「DNA鑑定申請書」に記載の上、厚生労働省社会・援護局事業課に申請書を提出ください。

申請書を提出いただいた後、改めて実施に係る文書が送られてきます。

本DNA鑑定によって多くの遺骨の身元が特定され、遺族に返還できるよう、厚生労働省としても最大限努めています。長期間経過した遺骨を対象としていることや、技術的な制約もあることから、必ずしもご期待に添えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

なお、ご不明の点等ありましたら、下記へお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ先】

厚生労働省  
社会・援護局 事業課調査第一係

代表番号  
03 - 5253 - 1111  
(内線3482)

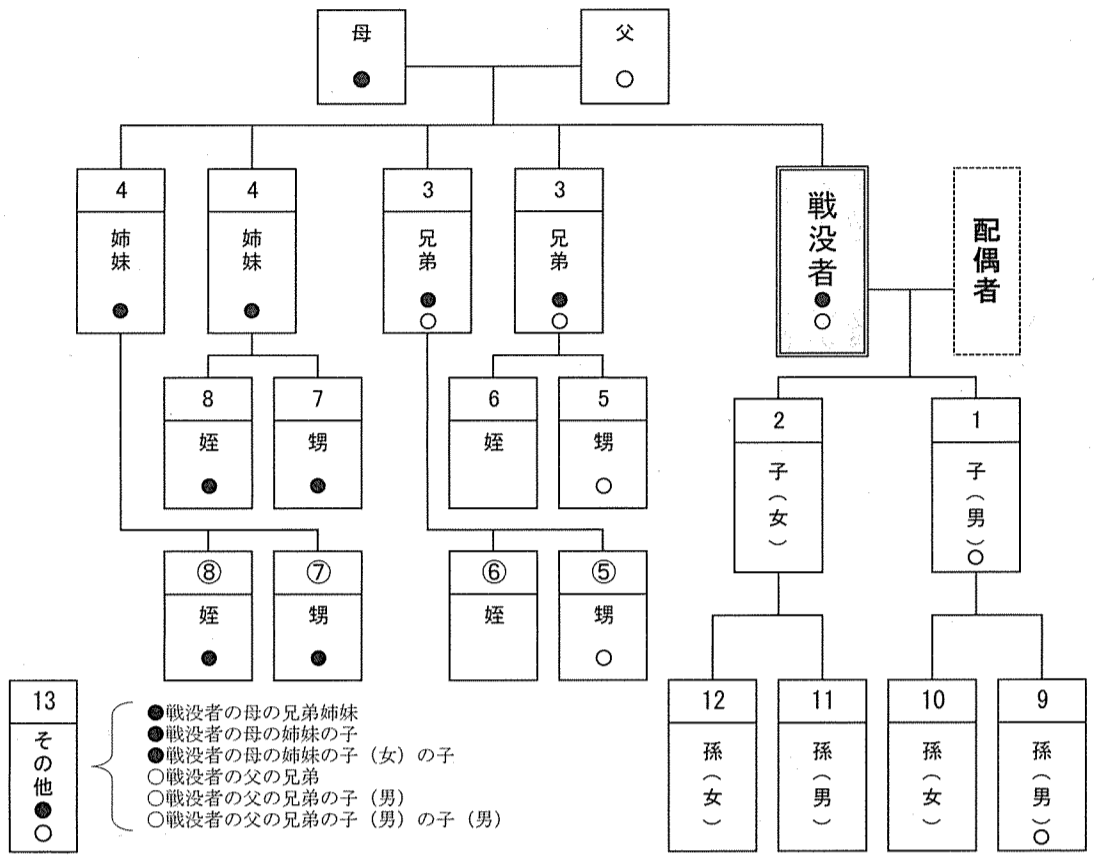
直通番号  
03 - 3595 - 2219

電話受付：月～金  
9：30～18：00

### 親族関係図

下の図から、検体を提供できる方の続柄が該当するものを選んでその番号を申請書の「続柄番号」の欄に記入してください。

●印は、戦没者とミトコンドリアDNA(母親から子供へ遺伝する特徴がある)が共通する方  
○印は、戦没者とY染色体(父親から男の子へ遺伝する特徴がある)が共通する方となります。



注：検体を提供される方が戦没者の甥・姪で、複数提供される場合、その甥・姪の親がそれぞれ異なる場合は、片方の番号を⑤～⑧としてください。  
なお、記入方法についてご不明な場合は、厚生労働省社会・援護局事業課調査第一係  
(代表電話：03-5253-1111 内線3482 直通電話：03-3595-2219)  
までお問い合わせください。

(別紙2)

### DNA鑑定申請書

番号※			
申請者	フリガナ		戦没者との続柄
	氏名		
住所	(〒 - ) (電話 - - )		
検体提供者1	フリガナ		戦没者との続柄 性別
	氏名		続柄番号
住所	(〒 - ) (電話 - - )		
検体提供者2	フリガナ		戦没者との続柄 性別
	氏名		続柄番号
住所	(〒 - ) (電話 - - )		
遺骨受領予定者	フリガナ		戦没者との続柄 性別
	氏名		
住所	(〒 - ) (電話 - - )		
戦没者	フリガナ		生年月日 (死亡時 歳)
	氏名		
	除籍時の本籍 死没場所 など		

私は、戦没者遺骨の返還を目的としてDNA鑑定の実施を申請します。

平成 年 月 日

(申請者名)

厚生労働省社会・援護局事業課長 殿

(別紙1)

## 申請手続きについて

### 1. 申請書の提出について

DNA鑑定の実施を希望される場合は、別紙2「DNA鑑定申請書」(裏面の記入上の注意をよく読んで、ご記入ください)。に記載の上、平成20年8月31日までに厚生労働省社会・援護局事業課まで、メール、FAXまたは郵送にてご連絡ください。

#### 【宛先】

(メール宛先) dnakantei@mhlw.go.jp  
(FAX宛先) 03-3595-2229  
(郵送宛先) 〒100-8916  
東京都千代田区霞が関1-2-2  
厚生労働省 社会・援護局 事業課調査第一係

### 2. DNA鑑定実施の可否の通知について

厚生労働省または沖縄県において、申請書に基づいて当局保管の死亡者名簿等の記録資料との照合調査を行い、DNA鑑定の実施が可能か否かについて検討し、その結果を文書によりお知らせします。

#### ◇DNA情報等のプライバシーの保護

- ・本DNA鑑定では、DNA情報の内、血縁関係を立証するために必要な領域のみが分析され、遺伝病等が分かる領域は一切分析されません。
- ・遺族のDNA情報は、個人情報として厳格に保護され、DNA情報及び検体は、厚生労働省と鑑定機関において、厳正な手続きと管理者の下で管理されます。
- ・遺族のDNA情報及び残余検体は、DNA鑑定により身元が特定された場合は廃棄されます。

#### ◇DNA鑑定に係る費用負担

DNA鑑定料は全額国庫負担となります。

#### ◇鑑定手続き

##### ①同意書の提出及び検体の提供について

DNA鑑定の実施が可能と判断された遺族には、同意書の提出及び検体を提供していただくことになります。

申請書に記入された検体提供者の方に、同意書及び検体採取キットを送付いたしますので、同意書の記入、検体の採取を行い、厚生労働省社会・援護局事業課宛に郵送してください。

##### ②検体の採取について

検体提供者自身が、検体採取用の綿棒を使って、自分の頬の粘膜(口の内側の粘膜)を採取していただきます。

#### ◇その他留意事項

本DNA鑑定に当たっては、以下の点につきましてご了承ください。

- ・本DNA鑑定については、遺族の鑑定希望の状況、各遺骨収容場所における鑑定の科学的有効性を総合的に勘案し、鑑定の適否を判断するものであるため、申請書を提出していただいても、DNA鑑定の実施の判断をするものであるため、申請書を提出していただいても、DNA鑑定の実施の可否決定には一定の時間を要する場合または鑑定を実施できない場合があります。
- ・DNA鑑定が実施可能と判断され、同意書及び検体を提出していただいた場合でも対象となる遺骨及び遺族が多数であること等の事情により、DNA鑑定の実施または結果の判明には一定の時間を要します。
- ・本DNA鑑定は、長期間経過した戦没者遺骨からDNAを抽出するため、DNAが壊れていて鑑定に十分なDNA型分析ができない場合等があることや集団の遺骨及び遺族を対象とする場合のDNA鑑定の技術的な制約等により、遺族から同意書及び検体を提供していただいても、DNA鑑定を実施できない、または親族関係を確認できない場合があります。

#### (記入上の注意)

1. 必要事項を楷書で記入してください。(※は記入しないでください)
2. 「申請者」の欄は、申請する戦没者の配偶者、子、父母、孫、兄弟姉妹または甥、姪等が記入してください。
3. 「遺骨受領予定者」の欄は、DNA鑑定の結果、遺骨の身元が確認された際、受領を予定されている方を記入してください。
4. 「戦没者」の欄の内、氏名以外について不明な部分がある場合は、分かる範囲で事項に記入してください。「死亡場所など」の欄については、死亡場所のほか、死没時の身分(兵隊、軍属、防衛隊、一般住民)、死没状況(弾丸に被弾、船舶遭難等)、戦没時期を可能な範囲で記載ください。
5. 「検体提供者」の欄も申請者が記入してください。  
検体提供者については、より正確な鑑定を行うため、別紙の親族関係図を参照の上、戦没者と血縁関係が近い方(戦没者の子及び続柄の●・○印のある方がより有効です)を2名記入してください。  
なお、他に検体提供者となる方がいないような場合は、1名でも構いません。  
また、続柄番号10～12の孫のみ及び6姪のみの場合、複数の検体を提供いただいても鑑定が不能な場合がありますのでご了承ください。  
★ご不明な点は、厚生労働省社会・援護局事業課調査第一係  
(代表電話 03-5253-1111 内線3482)  
(直通電話 03-3595-2219)  
にあらかじめご相談ください。
6. 申請者、遺骨受領予定者、検体提供者は同じ方で差し支えありません。ただし、申請者と異なる方が検体提供者や遺骨受領予定者になる場合、申請者は、それぞれの方の了解を得た上で、申請書を提出してください。



みたま祭

未来へつなげ鎮魂の灯り

約5000の提灯が夜空を彩り、今や湖国の「真夏の風物詩」となった「みたま祭」が、滋賀県護国神社で8月13日から15日まで盛大に齊行された。

戊辰戦争から大東亜戦争までの戦いで散華された県内出身の3万4千余柱の御霊を慰霊し、感謝の誠と世界の恒久平和への祈りを捧げるため、昭和52年から始まり、今年41回目を迎えた。



提灯が点灯し、幻想的な雰囲気に包まれた境内

でにぎわった。

15日午前11時30分、東京日本武道館で行われる政府主催全国戦没者追悼式に合わせて、滋賀県戦没者追悼慰霊祭が齊行された。山本賢司宮司による祝詞奏上の後、岸田会長等が玉串を奉納した。ラジオから流れる正午の時報を合図に一分間の黙禱。天皇陛下の「おことば」を聞きながら、参列した遺族会員や国会議員・滋賀県議会議員の皆さんは、御霊の安らかならんことを祈り、世界平和と命の大切さを後世に繋いでいくことを誓い合った。

この後、参集殿で「おにぎり」と味噌汁が振る舞われ、往時を偲ぶひとときを過ごした。また午後6時から県下戦没者慰霊祭も行われた。期間中、翼廊では「悲劇のビルマ戦線」の水彩画展や華道翠香流社中による生け花、遺族会による遺骨収集のパネル写真も展示され、多くの参拝者で賑わった。

また今年の特徴として、彦根市遺族会員の奉仕で伝統的に継続していた各種バザーを、会員の高齢化による負担の軽減と火器使用に関する関係機関の指導で縮小したことだ。代替として山本太郎副宜の計らいで、参拝者増の一方策として、月一回護国神社で開催している「ひこね朝市」を同時開催し、ビアガーデン(14日午後4時~8時30分)他を初めて取り入れた。特に、特設の「いけす」での「魚のつかみ取り」は子ども達に大人気となり、またたく間に用意した数が品切れとなる盛況で、今後のバザーのあり方に一石を投じたのでは、と思う。

(広報 原 幸男)

みたま祭滋賀県戦没者追悼慰霊祭に来賓参列の皆さん

Table listing names and titles of guests at the Mitama Festival. Columns include Name, Title, and Name, Title. Includes names like 大岡 敏孝, 富田 博明, etc.

びわ湖夢王国へ

ペットボトルの船で

私たちは日々生活する中で、老若男女を問わず全部の人たちが、大きな夢、小さな夢をもって生きているのではないのでしょうか。

国松善次滋賀県遺族会相談役の発案で発起人を募り、「びわ湖夢王国」を滋賀県内に設立し、衆議の結果、国王に國松善次氏が就任されました。女王にびわ湖オオナマズを指名され、母国滋賀の繁栄と活力ある国づくり、母なる琵琶湖の保全等に少しでも寄与することを目的に、夢ある子どもたちの育成に仲間作りを計画しました。

ちなみに私は「ペットボトル大臣」(なんじやこりや)に就任しました。リサイクルの一環として2ℓのペットボトルを集め、昨年

代を担う子供たちとのふれあいの場を持ちました。



ペットボトルの船を漕ぐ子どもたち

滋賀県護国神社 英霊顕彰館だより

先人の苦難の軌跡のもとに、今日の平和があることを感謝し、世界に「和」の精神を伝えることを通して、恒久平和の実現へとつながることを祈ります。

けつぎ、責任をもつて子孫のために日本の未来のために引き継ぎます。(湖南市男性 T・Nさん)

「悲劇のビルマ戦線」の水彩画展、拝見いたしました。昨夜のテレビで「インパール作戦」を見ましたが、言葉にならない悲しさを感じました。若い方々の死の上に私たちの平和があることを決して忘れません。(彦根市議会議員 女性)

8月の来館者 最多に!!

8月は全国各地で終戦関連行事があり、マスコミも連日特集を組んだりした関係で、「みたま祭」の期間を中心に、開館以来最多の来館者があった。6月以降の来館者数(記帳者のみ) 6月...72人 7月...47人 8月...143人 9月...47人 8月31日現在遺影掲揚集 3410柱 掲揚募集継続中! (広報 原 幸男)

名鉄観光 サービス 株式会社 大津支店

〒520-0056

滋賀県大津市末広町 1-1 日本生命ビル 2階

TEL 077-510-0100 FAX 077-510-0030

E-mail : otsu@mwt.co.jp

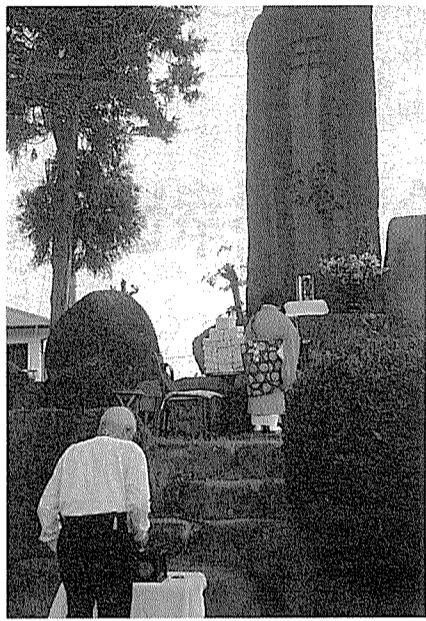
# まじまじなみ

## 愛知川弔魂碑に参拝して

愛荘町遺族会 加藤 光保

台風5号の発生が報じられた8月5日、町内三碑一斉開催の法要がありました。終戦のあの日を思い起こさせる太陽は、戦争で身内を亡くした者だけが感じることでできる暑さなのではないでしょうか。

毎年8月が来ると、愛荘町や愛荘町社会福祉協議会が主催して営んでくださいます。法要に参拝させていただいて遺族の一人として感謝しております。しかし、戦後72年の時の経過は、人の意識から戦争の惨禍と



愛知川弔魂碑前の法要

いったことを忘れさせます。弔魂碑の意味を、GHQの政策によってもたらされたと教えてくれる先輩がいました。小学校の北隅に高く聳え

る碑の意味合いを語り継ぐのは果たして誰だろうと、ふと考えました。先ずは私たち戦争犠牲者の遺族であり、行政による広報や、学校等の教育活動によるところが大きなものではないうか。今平和な日本ですが、隣国などの脅威が感じられ、防衛施策が根本から問われている昨今、尊い命を国に奉じて、あの大東亜戦争で犠牲となられた方々に哀悼の誠を捧げ、民族の永遠と世界の恒久平和を希求するものです。碑の前で手を合わせ、平和であり続けるために、各家庭に持ち帰って今日の集いを振り返り話し合いたいものです。

## 戦争と平和

米原市遺族会 西川 尚子

8月5日に開催されました米原市平和祈念式典で、米原市立大東中学校3年細溝晏向さんが平和の願いの作文を朗読してくれました。心に深く感動しましたのでここに一部を紹介いたします。

暮らせる、あたたかい世の中が実現してこそ本当の平和だと言えるのではないのでしょうか。戦争を体験された方々もきつとそのような世の中を目指していたのではないかと私は思います。私たちは、その思いを引き継いでいかなければならないのです。また、日本も戦争をするかもしれない。それを止めるためには、あの言葉「戦争は、人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の岩を築かなければならない」を忘れてはならないと思います。



平和の願いの作文を朗読する細溝晏向さん

## 野洲市主催「平和のつどい」

野洲市遺族会 副会長 永田 征二

8月10日、野洲市主催による「平和のつどい」が野洲市総合防災センターで行われました。2部構成で1部では戦没者を追悼する式典、2部では「平和を祈念するつどい」として山仲善彰市長、市議員、関係団体長はじめ遺族会員、および一般市民の皆様が参列約70人で厳粛かつ有意義に進められました。

追悼式典はまず野洲市戦没者1010柱の名簿(桐の箱と漆箱に

## 野洲市平和のつどい



「野洲市平和都市宣言」を読み上げる子どもたち

取められている)を菊花に囲まれている戦没者標柱前に奉安することから始まりました。国歌斉唱、黙禱に続いて山仲善彰市長式辞、坂口哲哉市議会議長並びに白井嘉嗣野洲市遺族会長の追悼のことがあり、英霊への感謝と平和の尊さを心に刻みました。続いて「野洲市平和都市宣言」を平成28年度次世代戦跡訪問研修参加者3人による力強い宣言文読上げがありました。世界恒久平和を希求しつつ豊かな自然と歴史に彩られたまち野洲市を目指すことを参列者一同再確認した次第です。1部の締めくくりとして参列者による献花

で終了しました。

2部では平成28年度次世代戦跡訪問研修参加者の戦跡訪問体験発表がありました。吉田碧衣さん、堤駿太さん(いずれも祇王小学校)、中村桃花さん(野洲中学校)の3人です。いずれの方も鹿児島知覧では強烈な印象を受け

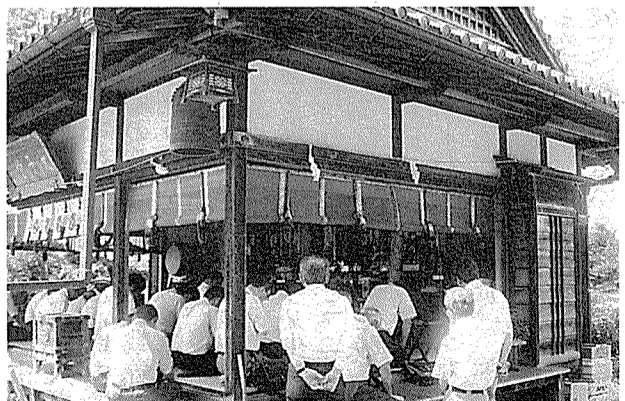
たこと、自分ならどうするだろうか等々素直な気持ちを発表されており、参列者の共感と好評を得ました。発表後は「大阪から来た女の子」集団学童疎開のくらしのDVDを鑑賞しました。昭和19年から終戦まで、滋賀県は大阪の学童を全面的に受け入れた経緯があります。当時を知る人も少なくなり、また県内各地にあったであろう資料も散逸して70数年の歳月をこどもも実感する次第です。あらためて調査する必要があるかと思ひ起こさせるものでした。会場には平和祈念館から借用した数点のパネル展示がありました。今年の「平和のつどい」は昨年末から市当局と市遺族会が何度も打ち合わせを行い従来の方法にいくつかの要望事項を取り入れて頂き実現したもので、参列者からは概ね好評との評価を得ています。英霊顕彰の基本理念を忘れず「平和のつどい」を継続していただくことを市当局に一層お願いする次第です。

## 町内のみたま祭

彦根市遺族会 出口 素子

8月6日、旧坂田郡鳥居本村大字原(現彦根市原町)出身の戦没者13柱のみたま祭が、太子堂祭と共に執り行われました。以前は追弔会として仏式で、今はみたま(霊)祭として宮司さんにより神式でのおつとめです。

戦後72年が経ちました今も、毎年8月に町内行事として町民の皆さんによっておつとめいただけます。は、遺族の一人として深く感謝いたしております。



彦根市原町出身の戦没者13柱のみたま祭

## 白髪の混じりし我が子の姿見て

素子

## 訂正して、おわびします

▼平成29年6月30日発行第254号2頁、辻正人日本遺族会青年部代表の「抱負歩みは継続していく」の記事で、「知覚同考の精神」とあるのは、「知覚動考の精神」の誤りでした。確認が不十分でした。

## 靖國の社頭に立てばよみがえる

母と見し日の写真の父よ

靖國の父安堵すと思う



### 平和のよろこび展開催

守山市遺族会会長 山川 芳志郎

「平成29年平和のよろこび展」を8月3日から8月10日まで守山市民ホール展示室で開催しました。始期は平成元年ですので、今年は29回目となります。

この「平和のよろこび展」は2部構成で、1部は守山市在住の遺児等が遺品を持ち寄り展示するコーナーと、年度毎にテーマを決めて展示する特別展の2部に分けて展示しています。

1部は、戦地から父や伯父(叔父)が送ってきた葉書や「武運長久」と記した日章旗、さらに着用していた軍服や水筒、出征時の家族全員写真や当時を偲ぶアルバムも展示しました。

2部の特別展のテーマは「従軍慰安婦と薬」です。そのうち「従軍慰安婦の部」では戦死や戦病死された守山市出身の2人の方を紹介しました。その一人の方は故大谷しなさんで、戦死された場所、期日はパパアニューギニア沖で、昭和18年12月1日死亡でした。以下は家族や身内の

方に語ってもらった内容です。

◇日赤のマーク「十」のついた船に乗っていた。そのため船自体は攻撃を受けなかったが、近くにいた輸送船が攻撃を受け沈没。輸送船に乗っていた兵隊さんが海に投げ出され、その兵隊さんを助けている間にバランスを崩し、油だけの海に転落。それきり浮き上がってこなかった。守山山下之郷町の墓地に立派な墓が建立されており、墓石に赤十字のマーク「十」と勲八等が刻まれている。

もう一人は故原田辰枝さんで、戦病死された方でした。以下は家族の方の語りです。

◇中国(満州)に渡り、中国本溪湖(終戦時)の陸軍病院で、負傷した兵隊さんの手当てに当たっていた。しかし、途中で病気になる時局は終戦。中国軍の命で病院は解散させられる。混乱の中、日本へ帰国する多くの関係者に混じり、病気の身でありながら移動。長途の歩行で病状が悪化。昭和21年3月17日死亡。この方も守山市金森町の墓地に立派な墓が建立されている。

「薬の部」では、戦中戦後の使用されていた薬等を展示しました。

「平和のよろこび展」の展示コーナー



ルミ型救護セット(大中小)、看護婦の制服、担架、ほか数点。中でも軟膏を入れる小さな容器が300個あり、これに当時メンソレータムを入れ、前線へ負傷した兵隊さんに塗っていたと聞き、あまりの粗末さに呆れました。

(2)日野町は昔から薬の町です。この町で作った薬を全国に売りに回っていました。この町に「近江日野商人館」という歴史民俗史料館があり、この史料館を訪れ、展示してある珍しい薬類を借用、展示しました。万病に効く感應丸が中心でした。主な展示品は次の通りです。

感應丸、小児感應丸、六神丸、萬病感應丸、胎毒下し、行商に用いた藤製の重ねかご、感應丸と書いた木製の大きな看板、ほか数点。  
(3)上郷土史料館にも訪れ、薬に関する物を借用し展示しました。またここでは、生活の中に溶け込んだ生薬の使用法や民間療法も聞きましただので、これを掲示し紹介しました。それは①富山の薬行商が各家に置いて回った薬箱。中にまだ現物が残っているものもありました。以下薬草利用法について聞いたものを記します。②ジュウヤクを乾燥。これを細かく切って煎じて飲む。今で言う健康食品。③ゲンノシヨウコ、センブリを煎じて飲む。④胃腸薬⑤白南天を煎じて飲む。⑥風邪薬⑦シマミミズを煎じて飲む。⑧大汗をかき風邪が治る。⑨ユキノシタを煎じて飲む。⑩熱さまし⑪血止草(ヨモギ)を揉み、青汁を切り口につける。⑫切り口の血が止まり化膿しない。⑬薬種の油の入った瓶にムカデを入れ保存。⑭蜂さされ、火傷や切り口の部位に塗る。⑮蜂やムカデにさされたら小便をかける。

8月11日、高島市主催、高島市教育委員会・高島市社会福祉協議会・高島市遺族会・高島市青年協議会主催による「平成29年度高島市戦争犠牲者を追悼し平和を誓う市民の集い」が、市内各地から遺族をはじめ市民や来賓の皆さん約600人の参加のもと、高島市民会館で開催された。

### 平成29年度 高島市戦争犠牲者を追悼し 平和を誓う市民の集い

高島市遺族会 川合 良雄

開会のごときは、黙祷に続いて、福井正明高島市長は式辞で「先の大戦で最期を遂げられた大切な肉親を、現実のものとして受け止めながら深い悲しみを乗り越えて、戦後の我が国の振興はもとよりこの高島の地の発展にご尽力をいただいたことに心から敬意と感謝を申し上げます」と述べられた。

次に、石田哲高島市議会議長、清水鉄次滋賀県議会議員、海東英和滋賀県議会議員から追悼のごときはを続いで、3月の次世代戦跡訪問研

修参加者の体験発表があった。司会者から次世代戦跡訪問研修事業の目的説明の後、金谷歩美さん(マキノ中学校1年)、岸田煌海さん(マキノ中学校1年)、藤本航さん(今津中学校1年)、平井千聖さん(安曇川中学校1年)、堤中沙野子さん(安曇川中学校2年生)、安藤由里子さん(湖西中学校1年)の6人が壇上で紹介され、藤本さん、堤中さん、安藤さんの3人が発表。「戦争の悲惨さと命の大切さが分かった」「二度と戦争を繰り返してはならない」等感想を述べてくれた。

休憩をはさんで、マキノ少年少女合唱団による「ふるさと」「ひとつの祈り」の合唱の披露。続いて高島市青年協議会の皆さんによる朗読劇「おとなになれなかつた弟たち」が上演された。

大東亜戦争末期、連日のB29による空襲、床の下に母と2人で掘った穴に、母、祖母、妹、弟とともに5人が隠れる日々。小学4年の時に生まれた弟は、食べ物もなく、母乳も出ない中、疎開先の病院で泣きもせず、静かに息を引き取った。栄養失調だった。この悲しい朗読劇は会場の皆さんの心を打った。最後に「核兵器を廃絶し恒久平和を希う都市宣言」で終了した。



山田 富士子さん(94歳・近江八幡市)

### おかあさんを訪ねて

私の父は、終戦になって戦地から帰らず、翌年昭和21年の春にようやく復員してきて、その年の秋に親の勧めで結婚しました。このとき母は23歳で今年94歳になります(大正12年生れ)。

父は残念ながら結婚当初から、戦地で患った「マラリアと結核」がスッキリせず、入院を繰り返していましたが、私が生後10ヶ月の時に他界してしまいました。結婚生活はわずか2年足らずでした。父の病氣は戦地からのものでしたから、戦病死と認められ、母は若く25歳で「乳飲み子を抱えた戦争未亡

### 母の口ぐせ「今が一番幸せ」

人)となつてしまいました。

こんな事情で母は、戦後の厳しい中で家族を守っていく為に家業の印刷業を継ぐことになり、細腕ながら女社長として懸命に働いてきました。

一方、65歳で会社を引退してからは、趣味の「絵更紗」を楽しみ、私の主人の勧めで87歳から歌を習い始め、今でも家族でカラオケに行ったり、主人のギター伴奏で歌ったりしています。また年に1回の「歌の発表会」には、若い時の着物を引っ張り出して来て出演し、主人から「健康とボケ防止がたてまえ」本音は「衣装自慢?」と冷かされています。さらに今年8月、関西テレビの「よーいドン」の番組で取材を受け、「となりの人間国宝」に認定されてニコニコ顔。口ぐせのように「今が一番幸せ」と喜んで

います。主人も私も「いつまでも元気で100歳越えを!」と応援しています。(近江八幡市 山田 祥子)



献花する「市民の集い」に参加の皆さん